

## 第2章 「東南アジア青年の船」青年会議

### 1 日程

月日	時間 (日本時間)	活動内容
2021年 11月28日 (日)	14:00-14:45	開会式 ・ 若宮健嗣内閣府特命担当大臣挨拶 ・ 内閣府担当者、一般財団法人青少年国際交流推進センター担当者紹介 ・ 各国PY紹介 ・ ファシリテーター紹介 ・ 令和3年度「東南アジア青年の船」青年会議説明 ・ ピア・ラーニングセッション紹介
	14:45-15:45	基調講演 講演者：辰野まどか（第28回SSEAYP日本PY、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 代表理事）
	16:00-18:00	グループ・ディスカッションI (DG別)
2021年 12月5日 (日)	14:00-15:15	ピア・ラーニングセッションI
	15:30-18:00	グループ・ディスカッションII (DG別)
2021年 12月12日 (日)	14:00-15:15	ピア・ラーニングセッションII
	15:30-18:00	グループ・ディスカッションIII (DG別)
2021年 12月19日 (日)	14:00-15:15	ピア・ラーニングセッションIII
	15:30-18:00	グループ・ディスカッションIV (DG別)
2022年 1月9日 (日)	13:30-14:00	各国紹介動画上映
	14:00-16:45	成果報告会・閉会式 ・ 成果報告 (DG別) ・ 吉田大内閣府青年国際交流担当室参事官補佐 (青年交流第3担当) 挨拶
	17:00-18:00	自己評価 (DG別)

注：グループ・ディスカッションI, II, III, IV (DG別) のいずれかに、ゲストスピーカー講義 (DG別) が含まれる。

## 2 内閣府特命担当大臣挨拶

若宮健嗣内閣府特命担当大臣

令和3年度「東南アジア青年の船」青年会議の開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

「東南アジア青年の船」事業は、日本とASEAN諸国との共同事業として40年以上の長きにわたり継続してきた歴史ある事業です。これからも各国の相互理解と友好の促進が重要であるとともに、各分野をリードする人材の育成が各国の発展に不可欠であると考えております。

私自身も一昨年は外務副大臣としてラオスを訪問するなど、これまで度々ASEANの国々と関わることで、日・ASEANの関係構築に尽力してまいりました。

本日、このような場に、熱意ある青年の皆様が参加され、開会を迎えることができ、私としても喜ばしい限りです。

コロナ禍を巡る状況は明るい兆しが見えているものの、いまだに予断を許さないことから、今年度もオンラ

インでの開催とすることといたしました。

昨年度のオンラインによる交流では、参加青年から「ディスカッションに参加して自分の成長を感じることができた。」といった声が寄せられました。大変充実した意見交換が行われ、その後も参加青年同士の活発な交流が続いていると承知しております。

今年度は「自由なテーマで参加青年自らが企画し議論する場」を新たに設けるなど、更に充実したプログラムを準備いたしました。

本会議に積極的に参加していただき、大いに議論いただくことで皆様が更なる成長を遂げられますよう切に祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

令和3年11月28日  
開会式

## 3 基調講演

辰野まどか

(第28回SSEAYP日本PY、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 代表理事)

本事業の基調講演にお招きいただき、大変光栄です。ASEAN各国や日本の、若きグローバル・リーダーである親善大使の皆さんとお会いする機会に心から感謝しています。皆さんとお会いできることをとても楽しみにしていました。本日は、グローバル・シチズンシップを通じて、より良い未来を共に作ることにしてお話します。

まず、自己紹介から始めますね。私は一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) の代表理事で、9年前に仲間たちとGiFTを設立しました。GiFTはグローバル・シチズンシップ (地球志民) 育成を推進することをミッションとする教育機関です。また、私は、東洋大学の客員教授も務めており、グローバル・シチズンシップ教育に関係する書籍を出版したりもしています。ユネスコ (国際連合教育科学文化機関)、JICA (国際協力機構)、文部科学省、大学などと協働し、グローバル・シチズンシップ教育の普及に努めています。そして、私はSSEAYPのPYとして、2001年、つまり今から20年前にこの事業に参加しました。だいぶ歳を重ねたように感じますが、この事業で素晴らしい経験をし、

生涯の友を得ました。本事業を通じて、グローバル・シチズンシップとは何か、リーダーシップとは何かということ学びました。そして、今、皆さんがこの事業のPYに選ばれたことをとても嬉しく思います。

さて、ここで質問です。あなたにとってグローバル・シチズンシップとは何でしょうか。グローバル・シチズンシップとは、世界をより良くしたいという思い、あるいは、志、考え方、情熱です。ぜひ、あなた自身のグローバル・シチズンシップを見つけてみましょう。

では、皆さんの笑顔、そしてエネルギー・レベルを見せてください。今、とてもワクワクしていて、参加する準備がバッチリという人は、手をパーに見せてください。それほどでもなく、まあまあ、うん、大丈夫、という感じであれば、手をチョキに見せてください。もし、まだ緊張しているのなら、もちろんそれでも大丈夫です。緊張も大切な感情ですから、グーを見せてください。それでは皆さん、今、どんな気分でしょうか。たくさんワクワクしている人、そして、まあまあの人いますね。なんと、緊張している人は誰もいないみたいですね！皆さんからとても前向きな良いエネルギーをい

ただき、講演を始めることができそうです。



## ■ グローバル・シチズンシップ、SDGsとは何か

それでは、グローバル・シチズンシップとは何か、また、SDGsとは何かについてお話しします。今、私たちはオンラインで事業を行っていますが、皆が船に乗っていると想像してみてください。では、更に想像力を働かせて、宇宙船に乗っていると想像してください。一緒に宇宙へ行く準備はできましたか。全員で宇宙へ行き、一緒に地球を見ていると想像してください。この世界は、どのように見えますか。宇宙から地球を見て、どう感じていますか。

これは、ある宇宙飛行士が1985年に世界各国の仲間とともに旅をした際の生の声です。

「最初の1～2日は、皆が自分の国を指差した。3～4日目は、それぞれが自分の大陸を指差した。5日目、私たちの目に映っているのは、たった一つの地球だった。」

もし、私がおの場にいたら、まず日本を指差していたでしょう。しかし、5日目には、宇宙飛行士全員が、地球が私たちの故郷であることに気づいたのです。一つの島でも大陸でも、特定の地域でもなく、この巨大な星、地球こそが私たちの故郷なのです。これが宇宙飛行士たちのリアルな声です。私もいつか宇宙に行ってみたいものです。

「同じ故郷を持つ私たちは、この地球社会に何をギフトすることができるのでしょうか。」これが私から皆さんへの質問です。

私がGiFTという組織を立ち上げたときから、同じ問いを投げかけてきました。未来に向けて、私たちは社会に何を贈ることができるのでしょうか。私たちのミッションは、グローバル・シチズンシップを通じて世界をつなぐことです。私たちは皆、世界をより良くしたいという思いを持っていると思います。皆のグローバル・シチズンシップをつなぐことができれば、きっとより良い未来を共に作ることはできるはずです。私がおの組織を立ち上げ、グローバル・シチズンシップ育成を推進しているのはこのためです。

SDGsについては、皆さんご存じだと思います。貧困をなくそう、飢餓をゼロになど、重要な目標があり、193の国連加盟国がこの未来を分かち合おうと採択しました。しかし、これら全ての目標を達成するのは難しいと思いませんか。何から始めれば良いのかさえ分からないかもしれません。だからこそ、グローバル・シチズンシップが必要なのです。実は、SDGsの中に「グローバル・シチズンシップ」という言葉があります。全ての課題や目標に取り組む前に、私たちの志とは何かを考えてみましょう。自分が世界をどう見たいのか、本当は何をしたいのか、何が好きなのかを見つけましょう。SDGsの全ての目標を達成するためには、そういうことがとても大切なのです。そのために、私たちはとてもシンプルな「グローバル・シチズンシップ・プロセス」を次のとおり作成しました。

ステップ1「自己を知る、受け入れる」

ステップ2「相手を知る、受け入れる」

ステップ3「共に取り組み、共に新たな価値を生み出す」

ステップ4「社会に参画し、還元する」

これらは、シンプルでとても汎用性が高いステップです。SDGsを考える前に、このステップを考えてみましょう。

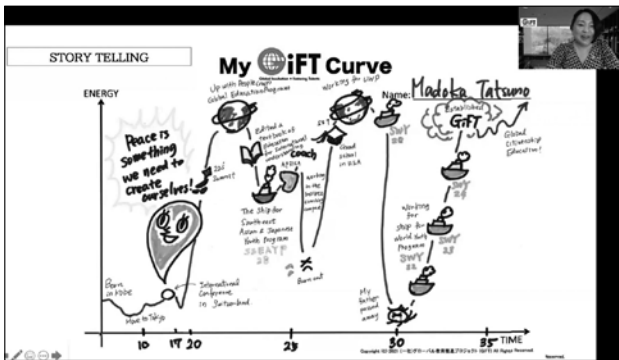
なぜ自分はここにいるのか。自分は何がしたいのか。世界をどのように見たいのか。どんな未来が見たいのか。これらの問いは全ての目標を達成するために、とても大切です。これこそが、ステップ1「自己を知る、受け入れる」ということなのです。あなたのグローバル・シチズンシップを見つけてみましょう。答えはあなた自身の中にあります。グローバル・シチズンシップとは、世界をより良くする志ということなのです。

これらのステップを踏みながら、私たちはカンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ブータンの7か国でプロジェクトを行ってきました。各国のパートナー組織とともに、SDGsプロジェクトを行っています。皆、SDGsの目標に向かって進んでいます。現在オンラインで実施している「東南アジア青年の船」青年会議も、この同じ流れの中にあります。また、日本政府と協働し、「トビタテ！留学JAPAN」にも取り組んでいます。この取組は、日本でよく知られている奨学金事業で、毎年約1,600名の学生が留学しています。GiFTでは、留学する高校生への研修を実施しており、研修では、もちろんこの「グローバル・シチズンシップ・プロセス」を活用しています。また、このような教育を普及させるべく、JICAとも協力し、教員研修にも取り組んでいます。多くの人と一緒にSDGsやグローバル・シチズンシップの推進に取り組むことは楽しいことです。世界をより良くしようという、

それぞれのグローバル・シチズンシップを見つけることができるのです。今回も、皆さんのグローバル・シチズンシップを知ることができるかと思うと、ワクワクしています。

### ■ストーリーテリング：グローバル・シチズンシップで良い未来を作るために

皆さんのグローバル・シチズンシップを探す前に、まずは、私自身がどのように自分のグローバル・シチズンシップを見つけたのかをお話しします。既に、GiFTで行ってきたこととお話したので、もしかしたら、すごい人だと思われたかもしれません。でも、これが私の人生です。



GiFTでは、このようなグラフを使って、自分の人生を表します。横軸が年齢で0歳から現在まで、縦軸がエネルギー・レベルを表しています。幸せな時はエネルギー・レベルが高くなり、悲しい時は低くなります。私の人生は、こんなにアップダウンの激しいものでした。私は神戸で生まれ、家族皆がその出身でした。5歳の時に東京に引っ越しましたが、その時、私はこてこての関西弁を話していました。そのため、東京の友達に「まどかちゃんの変な日本語を話すのね」と言われ、ショックを受けました。同じ日本の中でも、大きなカルチャーショックを受けたのです。

その後は、大好きな学校、友人たちにも恵まれ、楽しい日々を送っていました。中学校に入学すると、周りには帰国子女が多く、完璧な英語を話す友だちがたくさんいました。私は、関西弁は話せたけれど、英語はできませんでした。完璧な英語を話す帰国子女たちと比べて、英語は敵う訳がないと思い、英語の勉強をあきらめました。私は二つの大きな言い訳をして、13歳から17歳の間、全く英語を勉強しませんでした。一つ目は「海外なんて興味ない」、二つ目は「日本人たるもの、日本語が話せばいい」。こうして4年もの間、英語を避け続けましたが、困ることもなく、単に英語の成績が悪い、というだけのことでした。ところが、ここでグラフの示すとおり、17歳の時にとても忘れられない瞬間が訪れるのです。

17歳の誕生日の朝、母がとても嬉しそうに部屋へ入っ

てきて言いました。

「まどか、お誕生日おめでとう！17歳というとても大切な誕生日だから、夏休みにすごい誕生日プレゼントを用意したのよ。」

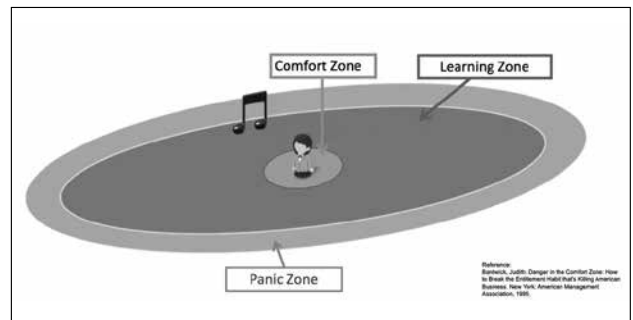
「何？」

「この夏休み、まどかは一人でスイスに行って、国際NGOが主催する国際会議に参加するの。3週間そこで過ごすのよ。」

「一人で？3週間なんて長すぎ！しかも、スイス？大人の会議だし、私なんか国際会議に参加できないでしょ。」

「そう、国際会議は大人の会議で、NGOのリーダー、政治家、企業の経営者、その道のプロが、世界各国から参加するの。でも、子どもを連れてくる人もいるから、誰かの子どものふりをしていれば大丈夫よ。」

もちろん、両親は一緒に来てくれず、一人で行くことになりました。



この図を見たことがありますか。これまで私は「コンフォート・ゾーン（居心地の良い領域）」で過ごしていました。毎日、同じ友人グループと過ごし、同じ学校生活、同じ日常を過ごしていました。私はよく皆と同じがいい、と言っていました。まさに「コンフォート・ゾーン」にいたのです。しかし、この「コンフォート・ゾーン」から外に出ると「ラーニング・ゾーン（学びの領域）」があり、新たな経験、新しい出会い、新しい発見があります。同じ環境にとどまるのではなく、いつもと違うものに出会うことで、自分の可能性を広げることができるのです。皆さんは、「東南アジア青年の船」青年会議に参加することで、既に「ラーニング・ゾーン」に入っているとと言えます。勇気を出して自分の「コンフォート・ゾーン」から一歩踏み出した皆さんを、本当に素晴らしいと思います。しかし、「ラーニング・ゾーン」の延長線上には、「パニック・ゾーン（パニックの領域）」があります。あまりに突然、遠くへ行き過ぎるとパニックになるかもしれません。当時、一人で会議に向かった私は、まさに「パニック・ゾーン」に突入していました。

国際会議の会場はお城で、300名もの人が世界各国から参加していました。会場に入ったとき、多様な肌の色、髪の色、目の色が違う人々が、民族衣装をまとった

様子がとてもカラフルで、これぞ「国際会議」だと思ったことを今でもよく覚えています。私はとても緊張していました。

そこへ私のような、17歳のアジアの小さな女の子が入っていったのです。大人の参加者たちも気がついて、英語で話しかけてきました。会場の入口で、「アイ・キャンノット・スピーク・イングリッシュ！（英語は話せません。）」と言ったことを今でも覚えています。すると、「英語を話さないってことは、フランス語かしら？」と、皆が一斉にフランス語で話し始めました。頭が真っ白になり、すぐにでも家に帰りたくなりましたが、残念ながら日本へ帰国するすべはなく、3週間滞在する以外の道はありませんでした。

思えばあの時、会議で話されていた話題はSDGsそのものでした。貧困、差別、環境、気候変動への活動などについて、どのように平和を築けるかを議論していたのです。私は辞書を引きながら、どのようなことが話されているのか何とか理解しようとしていました。その年は、ちょうど第二次世界大戦の終戦50周年で、二度と同じことを繰り返さず、平和を築くにはどうしたらいいかを話し合っていました。会議の期間中、参加者が毎日、どのように平和を築くかについて話し合っていたことに、強い感動を覚えました。この人たちのおかげで、私はこの平和な世界で暮らしているんだ、大人たちはすごい、と思いました。

そして最終日、3週間ずっと会場にいた私に、主催者の一人が会議の感想を話してほしい、と言いました。私はもちろん、「とんでもないです、できません」と言いましたが、彼は「同じグループの仲間に、君が思ったことを話せばいいだけだよ」と言いました。そこには、国も年代も違う人が15名ほどいて、その小グループの中で、この会議を通じて何を学んだか、どんなことを感じたのかを話しました。「皆さんが世界をいかに平和にしていくかを話し合うこの会議は、本当に素晴らしいと思いました。これからもこのような場がずっと続いてほしいと思います。」と言いつ終えてほっとしました。我ながらいいことを言った、とさえ思いました。ところが、私が言い終わった直後に、一人のお婆さんが突然、目の前でぶるぶると震え始めたので、私は何事かと思いました。その人は私に向かって叫びました。「何言っているの！」私は何か変なことを言ってしまったのだろうかと思いました。「何言っているの！これからもこのような場がずっと続いてほしいと思います、じゃないでしょ。あなたが続けていくんでしょ！」私の人生はここから大きく変わりました。

この瞬間、平和とは自分たちで作上げるものなのだ、と気付きました。英語も全然できない、世界の歴史も文化も知らない自分は、全く役に立っていないと思っていました。しかし、最年少の参加者として、私こそがこ

うした場を続けていく当事者となるのだ、と悟ったのです。歴史上の誰かが世界を平和にしようとして努力を重ねているからこそ、今のこの世界があるのだと思いました。

そして、私の人生は変わりました。その後の私のグラフには地球と船があり、たくさんの国に旅をしているのが分かると思います。世界のことをよく知らないなら知ればいい！と考えるようになりました。「国際理解1,000本ノック」と称して、自分の「コンフォート・ゾーン」を踏み出しました。1年間休学して、アップ・ウィズ・ピープルのプログラムに参加し、22か国から集まった120名の学生と一緒に70都市を旅しました。ボランティア活動、ホームステイ、そしてミュージカル公演をしました。1年間を通じて仲間やホストファミリーから世界について多くのことを学びました。その後、SSEAYPに参加し、本当に素晴らしい仲間ができました。学びの場としてもいい経験となり、アメリカでのプログラムにどっぷり1年間参加した後だったので、また少し文化が異なることに気づきました。そこから、多様な文化的背景を持つ人といかに協調してプロジェクトを遂行していくかを学びました。私にとってはかけがえない経験でした。そして、私はアフリカにも行き、多くの国を旅しました。世界中の国を訪れたいと心から思っていたので、アルバイトをたくさんして、春休みや夏休みに旅をしました。卒業後はビジネスコーチとして働き、アメリカの大学院でグローバル・シチズンシップ教育について学びました。21歳の時に参加したアップ・ウィズ・ピープルでも働きました。

29歳の時、「世界青年の船」事業（SWY）のファシリテーターを務めました。13か国270名の参加者がどのように平和を築いていけるか話し合っているのを見た時、私の夢が叶ったと思いました。17歳の時からグローバル教育に携わりたいという夢を追い続けてきたので、私は心から嬉しく、幸せを感じていました。

しかし、その直後に父が急死しました。人生で最も辛い時でした。母は専業主婦でした。私は、父がいなくても家族が生活できるようにしなければならず、様々な整理をするために、仕事も全て辞めなければなりません。当時、家族のことで精一杯で、自分の夢について考える暇もなく、本当に大変でした。そんな時、起きた出来事です。17歳の時から自分の夢を追い続け、「グローバル・シチズンシップ教育を通じて世界をより良くしたい」と言い続けていました。国際交流でできた、たくさんの仲間が私の夢を覚えていてくれて、「今は本当に辛い時だと思うけど、あきらめないで。まだかがずっと夢を追い続けてきたのを知っているから応援するよ。」と言ってくれました。仲間の励ましがあって、困難な時を乗り越えることができました。そして、再びSWYのために働くことになりました。素晴らしい同僚たちに恵まれ、傷も癒えてきました。3年間事業に

携わった後、ついに、GiFTを設立することができました。ご覧のとおり、特に設立期のGiFTの主なメンバーの多くは、SSEAYPとSWYの出身なのです。彼らには多くを説明する必要がありませんでした。「この事業が大好きで、多くの人にこのような教育を広めたい」と話すと、彼らは「うん、一緒にやろう！」と喜んでくれました。GiFTでは、SSEAYPやSWYの価値を広めています。まさに、SSEAYPやSWYを広める親善大使とも言えます。私たちが協働する7か国のパートナーにも、SSEAYP同窓生がいます。ですから、皆さんがこの事業で築く友情は20年経っても続くもので、共に活動し、互いの夢を支え合うことができる、と声を大にしてお伝えしたいです。皆さんがこの事業に参加できたこと、人生の宝物を手に入れたことを私はとても嬉しく思います。SSEAYPのおかげで、私はこのGiFTを設立し、素晴らしい仲間たちとやりがいのある仕事をしてきています。

17歳の時、自分の「コンフォート・ゾーン」を踏み出さなければならなかったけれど、私の航海はそこから始まりました。皆さんの航海はすでに始まっていると信じています。この事業を思い切り楽しんでください！

### ■タイムマシン・ワークショップ

さあ、次は皆さんの番です。タイムマシン・ワークショップを始めます。先ほど、あなたのグローバル・シチズンシップは何か、未来の社会に何を贈りたいか、と質問しました。次の世代にどのような世界を残したいですか。簡単に答えられる質問ではないかもしれませんが。それでは、これから船の代わりにタイムマシンに乗ります。準備はいいですか。今からちょうど9年後の、2030年11月28日に向かいましょう。自分の今の年齢に9を足してください。今20歳だとしたら、9年後は29歳ですね。

さあ、ここは2030年です。臨時ニュースが入ってきました。「おめでとうございます！ミッションを達成しました！SDGsの目標を全て達成することができました！2030年、理想の世界を達成しました！」

豊かな想像力を発揮して、私たちは理想の世界を達成した、と想像してください。こんな場面設定です。あなたは、この偉業に貢献した人物として、ニュースの取材を受けます。あなたは、全ての夢を実現した成功者です。座り方や所作も成功者のように振舞ってください。私が取材する側として、以下のような質問をしますので、紙にあなたの答えを記入してください。

- ・ 2030年の世界はどのような世界ですか。
- ・ あなたは今、何をしていますか。どこに住んで、周りにはどんな人たちがいますか。

- ・ 9年前に「東南アジア青年の船」青年会議に参加されたそうですが、会議に参加したことはあなたの人生にどのような影響を与えましたか。
- ・ 2021年から今まで、あなたが社会にギフトしてきたものは何ですか。

それでは、次に進みます。改めて質問します。あなたにとってのグローバル・シチズンシップは何ですか。あなたの考えや思いを書いてみてください。例えば、「まどかのグローバル・シチズンシップは、グローバル・シチズンシップで世界をつなげることです。」どんなことでも構いません。先ほどのインタビューで答えたことを参考にしてください。SDGsを達成するための有能なリーダーになる、人々を助ける医師になるなど、自分の夢を書いてもいいです。もしくは、自然を保護する、世界中に友人を作る、グローバルな視点で地域に根ざした行動をするなど、SDGsに向けた行動を書いてもいいです。また、異文化理解の促進、皆を笑顔にするなど、価値観を書いてもいいです。あなたの思ったことが未来の次世代へのギフトとなるのです。

あなたのグローバル・シチズンシップについて書き終えたら、他の参加者が書いたグローバル・シチズンシップについて読んでください。素晴らしいグローバル・シチズンシップが共有されていますね。ありがとうございます。

- ・ 私のグローバル・シチズンシップは、世界で起きていることを理解し、この地球上の全ての生物にとってより良い安全な世界を築く方法を知ることです。
- ・ 私のグローバル・シチズンシップは、世界と協働して、共通の目的を達成することです。
- ・ 私のグローバル・シチズンシップは、地域や世界で、皆の思いやりの心を広めていくことです。
- ・ 私のグローバル・シチズンシップは、教育と、地球にやさしい環境を世界に広げていくことです。
- ・ 私のグローバル・シチズンシップは、持続可能な生活スタイルを広め、人々をエンパワーすることです。

私は、グローバル・シチズンシップを通じて世界をつなげたいと、心から思っています。ここに、300個のグローバル・シチズンシップのメッセージが集まりました。私たちが世界をより良くしたいという志をつなぐことができれば、共に素敵な未来が作れると信じています。

皆さんと一緒に、グローバル・シチズンシップを活かした素晴らしい未来が共創できると確信しています。事業を楽しんでください。近い将来、世界をより良い場所にするために、共に活動しましょう。「良い航海を！」皆さんとお目にかかれて光栄でした。積極的なご参加ありがとうございました。